

第3回安曇野市誌編さん委員会 会議概要

1	会議名..... 第3回安曇野市誌編さん委員会...
2	日 時..... 令和2年11月10日(火) 午後10時00分から11時30分まで
3	会 場..... 安曇野市役所...3階... 共用会議室306...
4	出席者..... 小松芳郎委員長、倉石あつ子職務代理者、窪田尚幸委員、笹本正治委員、高原正文委員、梅千野成央委員、宮崎崇徳委員
5	欠席者..... 上角委員
6	市側出席者..... 山下課長、財津補佐、逸見主査、原郷土博物館長、平沢文書館長、那須野係員、高橋主事
7	公開・非公開の別..... 公開
8	傍聴人..... 0人..... 記者..... 0人
9	会議概要作成年月日..... 令和2年12月4日
会 議 事 項 等	
○会議の概要	
1	開会
2	あいさつ(山下課長)
3	協議
	(1) 安曇野市誌編さん構想について
事務局	・編さん構想について(案)の説明
委員	・調査研究で集めた情報は市民に幅広く提供していく視点が必要。できた市誌をWebで公開すればよいというのではなく、市誌は集めた情報のアウトプットのひとつにすぎない。市誌は制約があるがWebは柔軟に対応する方針でお願いしたい。
事務局	・安曇野市バーチャルミュージアムとして、市のホームページにサブサイトを載せていく事になった。現在課の方で進めている。
委員	・編さんに15年かかるが、作りながら子ども版のデジタル版、バーチャルミュージアムとリンクさせ教材としても使えるように考えてほしい。
委員	・配布資料の「安曇野を構成する要素」の中にある人物の中に「信濃木崎夏季大学」の平林広人先生や、藤森秀夫先生は全集も出ていない。これを捕捉し見直す予定はあるか。
事務局	・この資料にあるものは、新市博物館構想を構成したときに作ったもので代表的なもののみ掲げた。図を書き換える事は考えていない。
委員	・要素表の中の「村田コレクション」は係争の過去もあり、見直してほしい。
委員	・「市域としての広域の視点でなければ理解できない歴史文化をえがく必要がある」という文言を入れる必要がある。また、「ふるさと子ども大賞」のような子どもたち主体の活動を展開するような取り組みも手法のひとつとして考えてはどうか。
事務局	・子ども版への意見は「活用の検討」の中に含めたい。
委員	・安曇野市の政策と歴史文化の繋がりをもっているかが大事。諸要素表にもっと具体的な政策の表示があってもよい。Webで総論が公開され、そこに政策も位置づけられるとよい。
委員	・「市民と共に作る」の部分は、市誌を作るだけでなくできたものを活かすのも「市民と共に」でありたい。フィールドワークを通じて世代を越えた人材育成に繋げるのも柱にしてほしい。
事務局	・「市民と共に作り活かす」という表現にしたい。活用の具体策については今後の編さん委員会でも議論していただきたい。
委員	・子どもたちに情報を伝える際に、例えば「ムラ」という言葉は、中世までのムラは現代のムラのご概念とはなじまない。近世のムラと現代のムラは同じか違うか、子どもたちが一つの言葉をいかに豊富に伝えるかが大事である。
委員	・Web版キッズページは子どもたちの疑問を解決するための一つの手段であり、実際に出かけて行って、人と出会うことが「深い学び」に繋がる。Web、映像、動画等を活用しながら、総合的な学習を目指すべき。「ふるさと子ども大賞」は両刃の剣で、大人の手が入ると見栄えの良いものが賞を

取ってしまうところがある。

委員 ・市誌を書く時の方針として、年号や個人名を網羅的に出して良いか考える必要がある。それと関連して、使ってもらう資料編をどう作るか。手法、発想法の中にどのような新しさが入っているか、どこかの段階で論議をしてほしい。その際には専門家以外の意見も聞く機会を作してほしい。

事務局 ・資料編は白紙の状態。実際に関わる委員のみなさんの意見も聞きながら考えたい。

事務局 ・設置要綱、今後の予定について説明

(2) 民俗編の構想について

事務局 ・民俗編の構想について(案)の説明

委員 ・「市誌編さん方針」にある「昔から」の定義について、民俗は現在の生活状況から過去へ遡っていく学問。「昔」とは「遡れる限り」ということ。章立てについて、第1章は現在の安曇野から誇れるものなどを取り上げ安曇野のイメージを作りたい。素案なので部会で揉みたい。

委員 ・「古老から聞き取る」も大切だが、現在消えつつある民俗だけでなく、今の民俗を作っている若者たちから聞き取ってほしい。

委員 ・第3章の鉄道について、「細野駅」があるのは何故か。本村の神代文字碑は歴史と民俗両方がかかわるがどう処理するのか。正月三ケ日の食べ物には、芋汁とうどんが書かれているが、我が家はすまし汁の雑煮である。研究してほしい。

事務局 ・鉄道には広がりがあるという意味で「細野」を載せた。広域的な人の動きも載せる必要がある。たたき台としてご理解いただきたい。イベント的な祭りも落とせないし、無くなる講も併せて捉えたと願っている。神代文字碑は石造物の多様性として記述される。

委員 ・安曇野市の特色は何かということについて、民俗編で独立してやるべきか他の編とすり合わせるか難しい。第1章と第10章との関わりなど。

事務局 ・先行して民俗編で検討したい。他の編の専門調査員が決まったらすり合わせたい。

委員 ・民俗編構想の中にある「地域差」でのみ書くと従来と作り方と同じ。地域間の差だけでなく、安曇野市の共通点として何かを考える必要がある。それが安曇野市の特色にもかかわる。

事務局 ・広域な視点でみて地域差を知ること重要。分断するための「地域差」ではない。部会ではお互いの考えを出し合って進めるので、個々の考えだけで進めることはない。

委員長 ・市全体の特色などは民俗が先行する。全体の人選が決まっていない中でも、市の特色をまとめていかななくてはならない。

委員 ・そうであるならば編さん委員会で枠組みや柱を立てるべき。

事務局 ・編さん委員会の役割としてできると思う。柱については、まずは民俗部会を進める中で洗い出してみたい。それは次回の編さん委員会に報告し協議するようにしたい。

委員 ・「安曇野的」なもの何かという論点と同時に、私たちが忘れてしまっていて日常生活の大事な部分を意識して書く。いままでの市誌はそういう部分がない。事象や年代の羅列だけでよいのかなどを、この会議の場で議論できたらよい。

委員 ・子ども民俗編について、「安曇野市って面白い、素晴らしい」とプラス面は書いてあるが、マイナス面もあるかと思う。章立ての中に「子どもの遊び」があるが、今の子どもたちはオンラインゲーム。一方、けん玉などの遊びも楽しむ姿がある。子どもたちへの取材も入れたらどうか。

委員長 ・各編900ページという事は、10章の章立てで各章90ページしかない。事務方も委員もこのことを留意してほしい。掲載できないところは別的手段(紀要など)で。

委員長 ・資料編も大きな課題として残る。次の機会に。

事務局 ・まずは民俗編から開始したい。来年度当初に編さん委員会を開き、資料編についても協議したい。

4 閉会